

みやぎご当地トピック



女川町

道の駅おながわ

「道の駅おながわ」の事務局を務める女川みらい創造株式会社の代表取締役社長 阿部喜英さんにお話を伺いました。



女川町

レンガみちに笑顔が咲き誇る「道の駅おながわ」

コバルトブルーの海と豊かな自然に囲まれた女川町。JR女川駅から海へと続く美しいレンガみち（歩行者専用道路）沿いに広がるのが、エリア型の道の駅「道の駅おながわ」です。

令和3年4月に道の駅として登録された「シーパルピア女川」「地元市場ハマテラス」「女川町まちなか交流館」「女川町たびの情報館ぶらっと」の4施設に加えて、令和7年4月には駅舎内の「女川温泉ゆぼっぼ」や、海を眺めながらBBQが楽しめる「女川水産業体験館あがいんステーション」が仲間入りし、全6施設・30店舗を超えるテナントからなる一大交流拠点となっています。

ここでは新鮮な海の幸はもちろん、釜飯やピッツァ、パスタなど、こだわりのグルメが勢揃い。個性豊かな特産品も顔を揃え、水産業体験や温泉施設でのリフレッシュなど、一か所にいながら「観光・食・体験・癒やし」のすべてを満喫できる贅沢なスポットとして人気です。

地域の笑顔があふれ、訪れる人を温かく迎えてくれる「道の駅おながわ」は、観光や道路情報のほか、震災復興の歩みを伝える情報発信の役割も担っています。心地よい潮風を感じながら、皆さんも「道の駅おながわ」に足を運んでみませんか。



駅舎内の女川温泉ゆぼっぼ

新鮮な海の幸

道の駅おながわ

場所 女川駅前レンガみち周辺地区 TEL 0225-24-8118 (事務局受付時間9:00~17:00)

営業時間・定休日 各店舗により異なりますので、事前にご確認願います。 駐車場 周辺に無料の町営駐車場あり

デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」ダウンロード率は50%超!

デジタル身分証アプリのミニアプリの一つ「原子力防災アプリ」で、原子力災害からの避難をスマホで一括サポート!



■ 利用規約に同意していますか？

アプリで情報を受け取るためには、ミニアプリを開いて利用規約への同意が必要です。

今すぐアイコンを
タップして確認!

まだデジタル身分証アプリをダウンロードしていない方は…
二次元コードを読み取ってアプリをダウンロード!!



女川原子力発電所運転状況のお知らせ

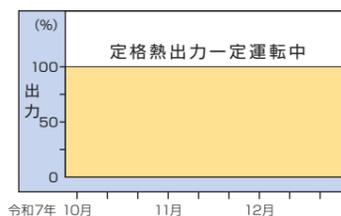
1号機

廃止措置中

- ◎燃料搬出作業
- ◎汚染状況調査
- ◎管理区域外設備の解体撤去等

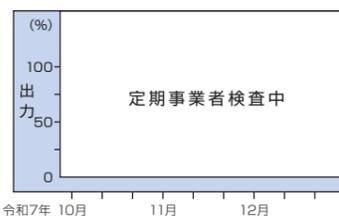
2号機

電気出力
825,000kW
◎12/5 19:02~
12/8 6:57
◎12/19 17:01~
12/22 7:00
湖位低下に伴う
発電機出力抑制



3号機

電気出力
825,000kW



原子力だよりみやぎ

宮城県復興・危機管理部原子力安全対策課
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai/>

原子力だよりみやぎへのご意見ご感想がありましたら、
こちらまでお寄せください。

TEL.022-211-2607 FAX.022-211-2695
E-mail:gentai@pref.miyagi.lg.jp

この広報誌は86,000部作成し1部あたりの単価は
約11円となっています。



原 子 力 だ よ り

み や ぎ

春号

VOL.172
SPRING
2026



撮影地：女川町「道の駅おながわ」

02.

教えて!環境放射能調査結果の見方

今回は「原子力だよりみやぎ」の4~5ページで毎号お伝えしている、女川原子力発電所周辺の「環境放射能調査結果」について、詳しくご説明いたします。

03. モニタリングポイント等における 積算線量測定を終了について

04. 女川原子力発電所周辺の環境放射能調査結果
環境への影響は認められませんでした

06. 女川原子力発電所周辺の温排水調査結果
環境への影響は認められませんでした

08. みやぎご当地トピック

教えて！環境放射能調査結果の見方



Q1. この「原子力だよりみやぎ」の4～5ページにある「環境放射能調査」の目的を教えてください！



A1. 「環境放射能調査」はね、女川原子力発電所からの放射性核種の放出がないかどうか確認しているんだよ。環境放射能の測定は昭和56年から現在までずっと行われていて、その間は女川原子力発電所から環境への影響は発生していないことが分かっているんだ。だから、過去の測定値を超えたかどうかを見て、測定結果の評価を行っているよ。

Q2. 環境放射能調査の「1 放射線の強さ」と「2 環境試料中の放射能濃度」から何が分かるの？

A2. 「放射線の強さ」は、人が外部から受ける被ばく量が分かる測定値だよ。そして「環境試料中の放射能濃度」は、自然環境中に放射性核種がどれくらい含まれているかが分かる測定値だよ。

Q3. 「環境放射能調査結果」のグラフの見方を教えて！

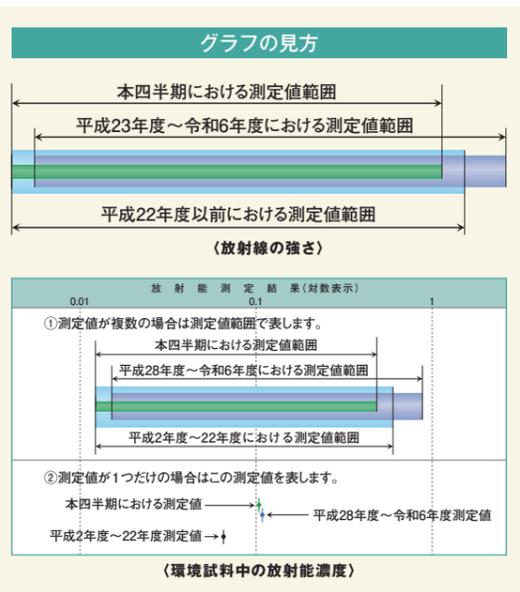
A3. 女川原子力発電所の周辺で測った「1 放射線の強さ」「2 環境試料中の放射能濃度」が過去の測定結果と比べて、過去3か月間に変わったところがないかを確認しているよ。帯グラフになっているのは、測定値に幅があるからなんだ。例えば「1 放射線の強さ」は天気などで日によって上下するし、「2 環境試料の放射能濃度」は、同じ種類の試料でもそれぞれ違いがあるから、その期間に測った最大値と最小値を帯で示しているんだよ。



なるほど。じゃあ、水色の帯グラフの中に緑の帯グラフが入っていれば、まずは安心してことなのね。



そのとおり。ただし県では、たとえ過去の範囲に入っても、本当に発電所の影響がないかを詳しく確認しているよ。



Q4. 測定地点の図にある「モニタリングステーション」と「モニタリングポイント」は何が違うの？

A4. モニタリングステーションは、発電所から30km圏内で放射線の強さや気象の状況をリアルタイムで測定している施設だよ。測定結果はホームページで公開されていて、常に最新のデータを見ることができるよ。モニタリングポイントは、牡鹿半島を中心に置かれていて、3か月間にその場所が受けた放射線の合計（これを「積算線量」といいます。）を測定している施設だけど、最近是全国的に、より新しい方法に代わってきていて、宮城県でも3月で測定を終了するよ。（詳しくは隣のページをご覧ください。）



モニタリングステーション(女川町飯子浜)



モニタリングポイントと積算線量の測定

※測定のため、他に積算線量計の熱処理や線源照射も実施

モニタリングポイント等における積算線量測定を終了について

県ではこれまで調査項目のひとつとして、モニタリングステーション、モニタリングポイントにおいて、放射線の積算線量を測定してきました。

このたび、この積算線量測定を令和8年3月をもって終了することとしましたのでお知らせします。

積算線量測定とは

積算線量は、一定期間を通して安全に保たれているかを確認するため、放射線量の合計（積算線量）を測る装置をモニタリングポイント、モニタリングステーションに設置し、3か月間毎に測定していたものです。

平均的な放射線量や3か月間の合計を把握することはできますが、時間ごとの放射線量の変化を記録することはできません。

終了の理由

原子力規制庁が平成30年に積算線量の測定方法について方針を見直し、時間ごとの放射線量の変化を記録できる方法で測定するよう改めたことから、本県においても積算線量測定を終了することとしたものです。

今後の調査体制

積算線量測定を開始した昭和56年以降、放射線測定器の技術的進歩や高度化に加え、東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓等をふまえ、本県は調査体制を充実強化してまいりました。

モニタリングステーションは女川原子力発電所を中心とした全方位に設置され、リアルタイムで24時間365日監視しているため、放射線量率が通常と異なる値を示した際には、速やかに調査を行い、必要に応じて移動式の測定器を使い、集落ごとの放射線量率をリアルタイムで測定できる体制を整備しています。

さらに、原子力発電所で事故が発生した際に備え、リアルタイムで測定可能な電子式線量計を周辺地域に概ね5km間隔で設置しており、地域の放射線の状況をすぐに把握できる体制を整えています。

以上のことから、積算線量測定を終了しても、地域の女川原子力発電所からの影響を把握することが十分可能な体制となっております。



モニタリングステーション

モニタリングポイント

女川原子力発電所周辺の 環境放射能調査結果

令和7年10月～
令和7年12月

今期の環境放射能調査結果を評価したところ、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。

1 放射線の強さ (空間ガンマ線量率)

今期の調査結果では、下図のように東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前における測定値の範囲内でした。

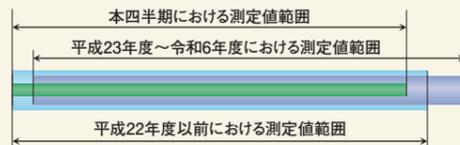
モニタリングステーション、モニタリングポイント及び放水口モニター設置地点



- モニタリングステーション**
 - 宮城県……………(7)
 - ◆宮城県(広域)……………(10)
 - 東北電力……………(4)
- モニタリングポイント**
 - 宮城県……………(12)
 - 東北電力……………(9)
- 放水口モニター**
 - ▲東北電力……………(3)

「◆宮城県(広域)」の10局は、女川原子力発電所から10～30kmの範囲で県が平成25年度から測定を開始したモニタリングステーションです。モニタリングステーションには、放射線を測定する精密機器や、気象を観測する風向風速計などの測定器を設置しています。

グラフの見方



令和7年10月～12月の測定結果

モニタリングステーション	ナノグレイ/時	広域モニタリングステーション	ナノグレイ/時
	20 40 60 80 100 120 140 160		20 40 60 80 100 120 140 160
●女川	[Bar chart]	◆石巻稲井	[Bar chart]
●飯子浜*1	[Bar chart]	◆雄勝	[Bar chart]
●小屋取	[Bar chart]	◆河南	[Bar chart]
●寄磯	[Bar chart]	◆河北	[Bar chart]
●鮫浦*1	[Bar chart]	◆北上	[Bar chart]
●谷川*1	[Bar chart]	◆鳴瀬	[Bar chart]
●荻浜*1	[Bar chart]	◆南郷	[Bar chart]
●塚浜	[Bar chart]	◆涌谷	[Bar chart]
●寺間	[Bar chart]	◆津山	[Bar chart]
●江島	[Bar chart]	◆志津川	[Bar chart]
●前網	[Bar chart]		

*1 : 令和元年度から運用開始

用語説明

【ナノグレイ(nGy)]放射線に関する単位で、「物質や組織が放射線のエネルギーをどのくらい吸収したかを表す吸収線量の単位」をグレイ(Gy)といいます。ナノグレイ(nGy)は、その10億分の1を表します。

【ベクレル(Bq)]放射能を表す単位で、1ベクレルとは「1秒間に1個の原子が壊れ、放射線を放出すること」を表します。

2 環境試料中の放射能濃度

今期の環境試料中の放射能濃度の調査結果は、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前の測定値の範囲を超過する試料がありましたが、事故前の測定値の範囲内まで低減している試料もあり、放射能濃度は減少傾向が見られています。なお、その超過した原因は女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原子力発電所事故によるものと考えられます。

令和7年10月～12月の測定結果

種別	試料名(試料数)	採取月	核種	放射能測定結果(対数表示)						福島第一原子力発電所事故後5年間の最大値	単位
				0.01	0.1	1	10	100	1000		
降下物(月間)	雨水・ちり(9)	10,11,12※2	Cs-137	[Bar chart]						9,248	Bq/m ³
降下物(四半期間)	雨水・ちり(5)	10～12※3	Cs-137	[Bar chart]						8,438	Bq/m ³
農産物	精米(2)	11	Cs-137	[Bar chart]						0.214	Bq/kg生
陸水	水道原水(1)	12	H-3	[Bar chart]						610	mBq/L
陸土	未耕地(1)	12	Sr-90	[Bar chart]						2.6	Bq/kg乾土
	未耕地(1)	12	Cs-134	[Bar chart]						125	Bq/kg乾土
	未耕地(1)	12	Cs-137	[Bar chart]						310	Bq/kg乾土
指標植物	松葉(3)	11	Cs-137	[Bar chart]						1,476	Bq/kg生
魚介類	アイナメ(1)	10	Cs-137	[Bar chart]						10.16	Bq/kg生
	マガキ(4)	10,11	Cs-137	[Bar chart]						1.13	Bq/kg生
海水	表層水(4)	10,11	Cs-137	[Bar chart]						98	mBq/L
海底土	表層土(砂)(4)	10,11	Cs-137	[Bar chart]						299	Bq/kg乾土
指標海産物	アラム(3)	11,12	Cs-137	[Bar chart]						12.76	Bq/kg生

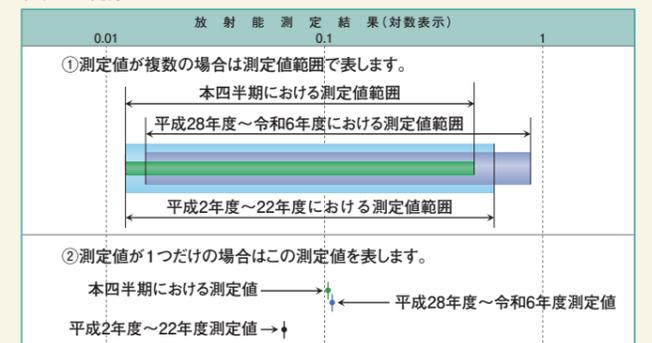
※2 : 10、11、12月の1ヶ月ごとに採取した結果 ※3 : 10～12月の3ヶ月間継続して採取した結果

令和7年10月～12月の調査で放射能核種が検出されなかった試料とその放射性核種名

試料名	放射性核種※4
海水	H-3
精米、アイナメ、マガキ、海底土	Sr-90
大根(葉)、大根(根)、水道原水、浮遊じん、エゾアワビ、ムラサキガイ	Cs-137
海水、アラム	I-131

※4 : 放射性核種 / H-3…トリチウム Sr-90…ストロンチウム90 Cs-137…セシウム137 I-131…ヨウ素131

グラフの見方



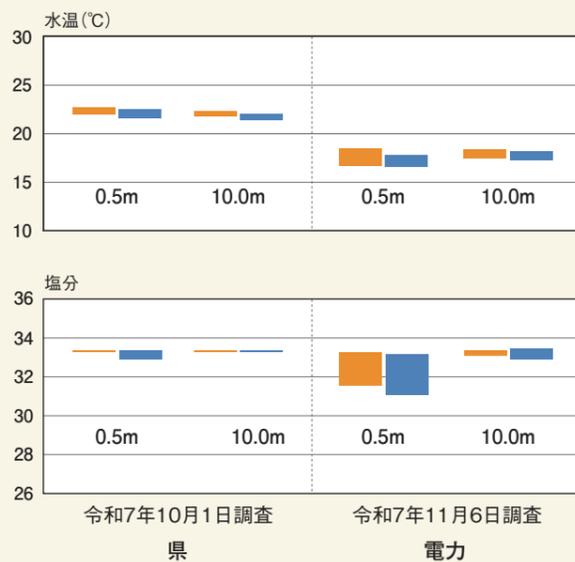
女川原子力発電所周辺の 温排水調査結果

令和7年10月～
令和7年12月

今期の調査の結果、女川原子力発電所周辺において温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。

1 水温・塩分調査

今期の調査結果から、温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。



■ 前面海域 ■ 周辺海域

注1 前面海域とは大貝崎と早崎を結ぶ線の内側(調査点11,12,16,17,18,20,21,22,29-37)をいいます。

注2 0.5m、10.0mは、調査水深を表しています。

用語説明

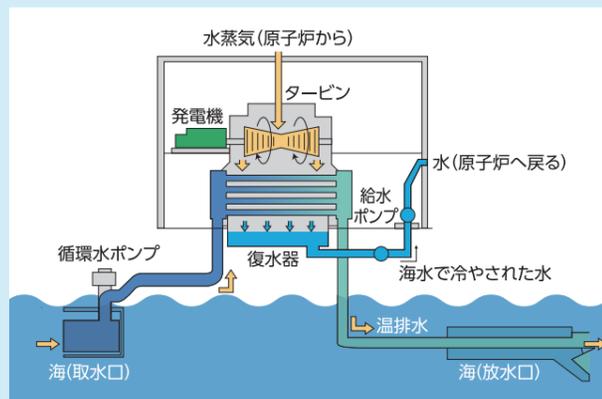
温排水

原子力発電所や火力発電所が稼働中の場合、蒸気の手でタービンを回して電気を作っています。

タービンを回した後の蒸気は、海水で冷やされて水に戻ります。この蒸気を冷やした後の海水は、取水した時の温度より少し上昇して海に戻ります。これを「温排水」と呼んでいます。

温排水は、自然の海水温度よりわずかに温度が高くなっていますが、周辺の海水と混ざり合って、温度を下げながら拡散し、自然の海水温度に戻ります。

女川原子力発電所では、温排水が発電所の前面海域及び周辺海域へ与える影響を把握するため、発電所の前面海域及び周辺海域の43調査点で、定期的に調査を行っています。



2 水温連続モニタリングによる水温調査

今期の調査結果から、温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。

(イ) 水温測定範囲

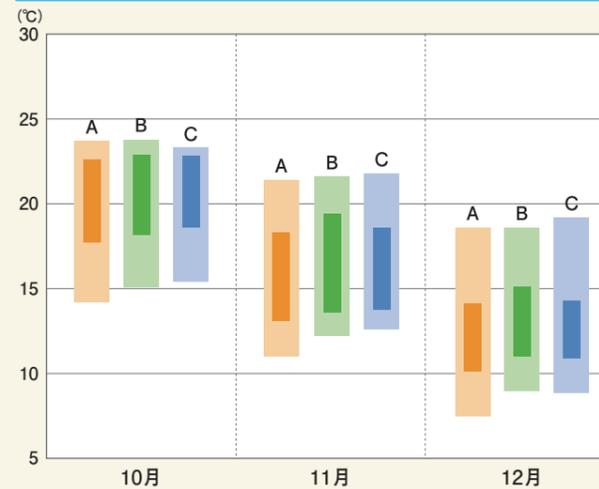
グラフの見方

水温連続モニタリングにより海水温を測定しています。



- A:女川湾沿岸(St.1~5,11) 県調査地点
- ★ B:前面海域(St.6,8,9,12,14) 東北電力調査地点
- C:湾中央(St.7) 東北電力調査地点
- ★ 陸域放流前(St.10,13,15) 東北電力調査地点

令和7年10月～12月



水温調査(モニタリング)位置図



(ロ) 測定点間の水温較差

■ 令和7年10月～12月

